

令和 5 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

新潟医療福祉大学大学院

令和 6 年 6 月

新潟医療福祉大学大学院 教職課程認定専攻科・分野（免許校種・免許教科） 一覧

- ・健康科学専攻 健康スポーツ学分野（中学校教諭専修・高等学校教諭専修（保健体育）

大学院としての全体評価

新潟医療福祉大学大学院では、「多様な価値観をもった子どもの成長を促す教育現場の抱える問題に対し、関係する人々の連携を促進し、その問題を根本から解決するとともに、学習者本位の教育を実現するために、持続的に成長し続けようとする実践力を有する教員を育成する」ことを目指してきた。その教員育成理念は 2010 年度に中・高保健体育専修免許状取得コースを立ち上げて以来、変わっていない。教育理念を反映するように、本コースを修了した大学院生は「専門性の高い実践力」を有した大学教員、中・高保健体育教員、さらには企業人として、それぞれのフィールドで非常に高い評価を受けている。そのような中、全学として 2016 年 4 月に「教職支援センター」が発足し、更なる教育活動の改善に努めている。また、2020 年には日本高等教育評価機構による大学認証評価において教職課程を含めて認証を受けている。

この度、教育職員免許法施行規則改正により、令和 4 年 4 月より教職課程の自己点検・評価が義務化され、自己点検・評価の観点が明示されたのを受け、教職課程の自己点検・評価を実施した。教職課程自己点検・評価については、教職課程運営に関する全学的組織である「教職支援センター」を中心に、教職支援センター運営委員会委員、関係教職員で報告書を作成し全学に周知し、広く公開する予定である。

本学大学院では、2020 年来のコロナ禍以前から「完全メディア化」に取り組んできたことから、コロナ禍においても大きな混乱を招くことなく教育活動を実施することができた。しかし、昨今の生成 AI の波及などによって変化する社会状況に伴い、学校教育や教員育成は大きな転換点を迎えており、今後は時代の変化に合わせた教員養成教育の課題を抽出しなければならない。今年度の教職課程自己点検・評価が質の高い教員育成につながることを期待する。

新潟医療福祉大学 教職課程長／教職支援センター長 脇野 哲郎

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	3
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	13
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	21
IV	現況基礎データ一覧	22

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：新潟医療福祉大学大学院 健康科学専攻健康スポーツ学分野
(専修免許取得コース (中・高保健体育))
- (2) 所在地：新潟県新潟市北区島見町 1398 番地
- (3) 学生数及び教員数 (令和 5 年 5 月 1 日現在)

学生数：健康スポーツ学分野

専修免許取得コース (中・高保健体育) 11 名／分野全体 17 名

教員数：健康スポーツ学分野 21 名

2 特色

新潟医療福祉大学大学院 (以下、本大学院) は、2005 年 4 月に、「より優れた QOL サポーターの育成」を教育理念として掲げて開設された。2023 年 3 月現在、修士課程 4 専攻 5 学位プログラムおよび博士後期課程 1 専攻 1 学位プログラムで構成されている。

修士課程健康科学専攻 (健康スポーツ学分野) に設置されている健康科学学位プログラム (以下、本学位プログラム) では、本大学院の教育理念をもとに、高齢社会の急速な進展および仮想空間と現実空間の融合促進に伴って増大・多様化する健康に関するニーズに対応して、様々な領域の専門家が連携し、対象者支援の質的向上を推進するために、栄養・スポーツの分野を中心とした健康科学等に関する研究と教育を進めるとともに、人と人との連携を促進する人材を育成している。特に、本学位プログラムの教育課程の 1 つとして、中・高保健体育専修免許状取得コース (本コース) を設置し、「より優れた QOL サポーターとしての教師」の育成を進めている。

この教員育成課程は、学位プログラムにおける人材育成の一環として位置付けられている。従って、本大学院教職課程では、多様な価値観をもった子どもの成長を促す教育現場の抱える問題に対し、関係する人々の連携を促進し、その問題を根本から解決す

るとともに、学習者本位の教育を実現するために、持続的に成長し続けようとする実践力を有する教員を育成することを目指している。

このように、健康科学専攻健康スポーツ学分野の中・高保健体育専修免許状取得コースでは、専修免許取得に必要とされる「高度な教育研究能力」に加えて、多様な人々の連携を促進できる能力を身に付けることを目的にしている。そのために少人数の院生に対して手厚い指導および実践を実施しており、この点が本コースの特色である。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

①目的・目標、育成を目指す教師像について教職課程に関わる教職員が共通理解をしているか

〔現状〕

目的・目標、育成を目指す教師像については、本学位プログラムの教職課程に関わる教員において審議した結果をもとに、教職支援センター運営委員会、教育学生支援機構、研究科委員会および大学院委員会での審議を経て、学長が決定している。したがって、教職課程に関わる教職員が共通理解をもって、「より優れた QOL サポーターとしての教師」を育成している。

〔優れた取組〕

本コースで目指す「より優れた QOL サポーターとしての教師」の到達度評価は、年に 1 回実施される修士論文報告会、大学院生生活動報告書、教職課程のシラバスや授業アンケートの結果を参考に、「より優れた QOL サポーターとしての教師」に関して自己点検・評価と共通理解を図っている。

<根拠となる資料・データ等>

1－1－①－1 各委員会の議事録	1－1－①－2 修士論文報告会
1－1－①－3 教職ポートフォリオ	1－1－①－4 大学院生生活動報告書
1－1－①－5 教職課程のシラバス	1－1－①－6 授業評価アンケート

②教職課程教育を通して育まれるべき学習成果（ラーニング・アウトカム）が具体的に示されているか

〔現状〕

本コースにおいて育成を目指す教師像である「より優れた QOL サポーターとしての教師」は、「Society 5.0 における学校教育を先導する次世代 QOL サポーターとしての

教師」という具体的な学習成果として示し、その到達までのプロセスを、ディプロマ・ポリシー（DP）ルーブリック、学位論文ルーブリックおよび専修免許取得に関する科目の成績などで評価している。

〔優れた取組〕

本コースでは、教職ポートフォリオと共に学位論文ルーブリックを用いることで、本学位プログラムの DP を踏まえた学習到達度の評価をする取り組みの準備を進めている。

＜根拠となる資料・データ等＞

- 1－1－②－1 DP ルーブリック
- 1－1－②－2 学位論文ルーブリック
- 1－1－②－3 教職ポートフォリオ
- 1－1－②－4 専修免許取得に関する科目の成績

③教職課程教育の目的・目標を学生に周知しているか

〔現状〕

教職課程履修者に対して、教師の専門性、専修免許状に必要な高度な教育研究能力および本大学院の目指す教師像について説明するオリエンテーション開催に向けた調整を行っている。また、本大学院ホームページ内に教職課程に関する学内専用ページを作成し、教職課程教育の目的・目標に大学院生がいつでもアクセスできる環境を準備している。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

- 1－1－③－1 2023 年度 教職課程履修者ガイダンス資料
- 1－1－③－2 2023 年度 教職課程ホームページ（学内専用ページ）成績

〔改善の方向性・課題〕

①について、教職課程に関わる教職員が共通理解をもって、「より優れた QOL サポーターとしての教師」を育成している。改善の方向性としては、さらに共通理解を深めるために教員養成の目的・目標を示したポスターなどを教職支援センターなどの教員養成関

連施設に設置することである。②について、DP ルーブリック、学位論文ルーブリックなど多面的かつ具体的に学習成果を評価しており、現状での課題はない。③について、本大学ホームページにおける教職課程教育の目的・目標の共有に加えて教職課程ハンドブックなどを作成し、本大学院の目指す教師像についてより一層の理解を促す。

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

①研究者教員と学校現場での優れた実践的経験を有する教員との協働体制を構築しているか

〔現状〕

研究者教員と実務家教員としての経歴をもつ教員が協力し、授業の運営や、採用試験対策、学校現場でのボランティアに対するフォローや報告会の開催などを行っている。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- 1－2－①－1 ボランティア体験を語る会に関する資料
- 1－2－①－2 専修免許取得コースのシラバス
- 1－2－①－3 人物試験対策の実施報告書
- 1－2－①－4 授業評価アンケート

②教職課程の運営に関して全学組織（教職支援センターなど）と学部（学科）の教職課程で意思疎通を図っているか

〔現状〕

大学院委員会が教職支援センター運営委員会と連携して教職課程の運営を行っている。また本大学院の教職課程に関わる教職員の一定数が、全学組織（教職支援センター運営委員会）に所属しているため、健康科学専攻（健康スポーツ学分野）、学部（健康科学部健康スポーツ学科）および全学組織間での意思疎通は良好である。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

- 1－2－②－1 ボランティア体験を語る会に関する資料
- 1－2－②－2 教職課程のシラバス
- 1－2－②－3 人物試験対策の実施報告書
- 1－2－②－4 授業評価アンケート

③教職課程の在り方を恒常的に自己点検・評価するために組織的に機能しているか

〔現状〕

学部（健康スポーツ学科）の教職課程では恒常的な自己点検・評価が行われているものの、本コースの教育課程では行われてこなかった。しかし、2022 年度、本大学院関係組織（大学院委員会、研究科委員会、健康科学専攻（健康スポーツ学分野）教員組織）と教職課程運営に関する全学組織（教職支援センター運営委員会）とが連携を図り、自己点検・評価体制を整備した。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

- 1－2－③－1 7 月健康スポーツ学科会議議事録
- 1－2－③－2 8 月大学院委員会議事録
- 1－2－③－3 8 月研究科委員会議事録

④教職課程の質的向上のために FD や SD の取り組みを展開しているか

〔現状〕

本学教職課程では、一種免許状取得に関する FD や SD が行われてきたが、専修免許状取得に関連する内容は行われていなかった。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

1-2-④-1 大学院 FD・SD のポスター

⑤教職課程に関わる情報公開を行っているか

〔現状〕

本大学院及び教職支援センターのホームページ（HP）において本自己点検・評価報告書を公開している。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

1-2-⑤-1 大学院ホームページ情報公開欄

1-2-⑤-2 教職支援センターホームページ

⑥教職課程教育を行う上での施設・設備が適切に整備されているか

〔現状〕

教職支援センターには、学校の教室を模した空間があり、黒板やモニターが設置されている。また電子黒板の設備も必要に応じて使用できる環境である。さらに、学内には、4つの体育館、屋内プール、ダンス場および3つのトレーニング施設が整備されており、保健体育科教育学、トレーニング科学および健康科学関係の授業や研究活動に加え、自主学習においても活用可能となっている。

〔優れた取組〕

上記に加え、学内 LAN や外部回線、大学院生が利用可能なプリンタ等が設置されている。また、大学院生室も設置されており、学習環境は整備されている。

<根拠となる資料・データ等>

1-2-⑥-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」

https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/

〔改善の方向性・課題〕

①と②については、特に課題は無いと考えている。③について、自己点検・評価を行う体制を整備したので、本報告書の作成も一つの契機として点検と改善のサイクルを進めていきたい。④については、専修免許状取得に関連する FD、SD はこれまで実施していないため、次年度から実施できるように検討する。⑤、⑥についても現状では課題は無いと考えている。ただし、今後大学院での教職課程が充実していくにつれて必要な施設、環境があればそれを整備していく必要がある。

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

①教職を担うにふさわしい学生を受け入れる履修上の基準を設定しているか

〔現状〕

本学位プログラムのアドミッションポリシー（AP）を踏まえ、本コース独自の AP を設定し、大学院生の受入れを実施している。そのため、高度専門職業人を目指す者が本コースを履修している状況である。具体的には、学部卒業生については中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）を取得した後に教員を目指す者が、社会人については一種免許状を取得した現職教員が専修免許状の取得を希望している。このため、履修希望者は既に教職を担うにふさわしい基準を充たした大学院生を受け入れている。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

2-1-①-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「大学院の構成・3ポリシー」

<https://www.nuhw.ac.jp/grad/about/composition.html>

②教職を担うにふさわしい学生の募集・選考等を実施しているか

〔現状〕

健康科学専攻では AP において、「より優れた QOL サポーター」の資質・能力として「STEPS」を掲げている。

S：健康科学に関する基礎的知識および国内外の情報を収集する力を有する。

T：異なる領域の考え方を理解し、専門家間の連携を促進しようとする強い意志を有する。

E：健康科学領域において、多様な価値観を尊重し、対象者を支援しようとする強い意志を有する。

P：健康科学に関する問題を多面的に認識し、解決するために必要な基礎的知識または経験を得ようとする強い意志を有する。

S: 健康科学に関する学術・実践活動に高い関心を持ち、主体的・積極的に学ぶ態度を有する。

上記 5 つの項目に基づき、本大学院健康科学専攻（スポーツ学分野）健康科学学位プログラムの入学試験を実施している。さらに、専修免許状を取得するためには、既に一種免許状を有している必要があることから、これから教職を担うにふさわしい者や既に教職を担っている大学院生の募集・選考等を実施している。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

2-1-②-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「大学院の構成・3 ポリシー」
<https://www.nuhw.ac.jp/grad/about/composition.html>

③当該教職課程に即した適切な数の履修学生を受け入れているか

〔現状〕

これまでの本学位プログラム修了者のうち、専修免許状取得コースの履修者は毎年 5 名前後となっている。大学院の専修免許状取得コースの開設以来、少人数教育を実施するとともに、適切な数の履修学生を受け入れている。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

2-1-③-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「大学院の構成・3 ポリシー」
<https://www.nuhw.ac.jp/grad/about/composition.html>

〔改善の方向性・課題〕

①～③について、本大学院では一種免許状を取得済の院生のみが専修免許状の取得を目指すため、少人数教育が展開されており、特に改善点はない。

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

①学生の教職に対する意欲や適性を把握しているか

〔現状〕

入学後に専修免許状の取得を希望する学生に対して、個別の相談に対応している。次年度から教職オリエンテーションの実施と教職ポートフォリオの配布も予定している。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

2－2－①－1 教職ポートフォリオ

②学生のニーズの把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っているか

〔現状〕

主研究指導教員と教職支援センター運営委員会とが連携して、キャリア支援を個別に適時行っている。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

2－2－②－1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」

https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/

2－2－②－2 2021 年 10 月 大学院委員会資料

③学生の学習状況に応じたきめ細やかな指導を行っているか

〔現状〕

主研究指導教員と教職支援センター運営委員会とが連携して、きめ細やかな指導を個別に適時行っている。

〔優れた取組〕

2022 年度より、履修、学修および研究、その他の相談支援の強化を目的に、複数教員での指導体制を構築し、きめこまやかな指導を行っている。

＜根拠となる資料・データ等＞

2－2－③－1 2021 年 10 月 大学院委員会資料

④教職入職に関する各種情報を適切に提供しているか

〔現状〕

入学後に専修免許状の取得を希望する学生に個別の相談に応じ、情報の提供を行っている。また、一種免許状取得希望者向けの情報についても、内容に応じて適時提供しており、教職支援センターでも関連情報を取得できる環境が整っている。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

2－2－④－1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」
https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/

⑤教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしているか

〔現状〕

一種免許状取得コースと合同の取組として、教職に就いている本学卒業生の話を聞く機会である「現職教員の声を聴く会」を開催している。それ以外には、主研究指導教員と教職支援センター運営委員会とが連携して、キャリア支援を個別に適宜行い、教員就職率の向上に努めている。

〔優れた取組〕

「現職教員の声を聴く会」では、新型コロナウイルス感染症対策という点もあり、オンライン会議システムを活用することで地理的、時間的な負担を軽減して現職教員に協力してもらい、収録した動画をオンデマンド型で配信している。

＜根拠となる資料・データ等＞

- 2-2-⑤-1 過去3年間の教員免許状取得状況
- 2-2-⑤-1 教職支援センター年報第5号（2020年度版）

⑥教職についている卒業生との協力体制を図っているか

〔現状〕

「現職教員の声を聴く会」や授業へのゲスト講師、またニューズレターへの原稿執筆を依頼することなどを通じて、教職に就いている卒業生と協力して、教員育成を進めている。

〔優れた取組〕

教職に就いている卒業生や、教職を志望する卒業生を対象とした「卒業生教職ネットワーク」という、メーリングリストによるOB・OGネットワークを構築している。

＜根拠となる資料・データ等＞

- 2-2-⑥-1 卒業生教職ネットワークのご案内

〔改善の方向性・課題〕

①～④について、キャリア支援、学習状況への支援について個別に随時対応してきたが、オリエンテーションの実施と、支援状況に関する情報の共有を定期的に行っていきたい。⑤、⑥については、一種免許状取得コースと合同の取組を主に行ってきたが、他大学の大学院を修了して教員として勤務している卒業生を含め、専修免許状を取得した卒業生と協力し、大学院生を対象とした総合的な学生支援を強化することを検討する。

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

①教職課程科目に限らず、修了単位30単位を活用して、建学の精神等、開放性の教員養成を行う大学としての特色ある独自性のある教員育成を行っているか

〔現状〕

教育職員専修免許状取得の場合の必要修得単位数は34単位としている。修士課程共通

科目のうち健康科学特論 2 単位、分野専門科目のうち健康スポーツ学特論 2 単位、特別研究 10 単位を必修としている。また分野専門科目のうち、特論科目から 8 科目 16 単位以上、演習科目から 1 科目 4 単位以上を選択必修としている。これらのカリキュラムは、「より優れた QOL サポーター」を育成する本大学院の教育理念に基づき設定された本学位プログラムのカリキュラムポリシー（CP）および本コース独自の CP を基準に構成されている。保健体育科に関する学問領域に留まらず、健康科学に関する学問領域で用いられる研究方法を学ぶことができるため、専修免許状取得にふさわしい高度な教育研究能力を身に付けられる体制を確立している。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

3-1-①-1 2023 年度学生便覧・履修の手引き

②学科等の目的を踏まえ、「教科専門」「教科指導」「教職専門」の各科目・領域間の系統性の確保を図っているか

〔現状〕

本コースにおいては、「教科専門」「教科指導」「教職専門」といった科目分類を実施していないが、「共通科目」「健康科学専攻専門科目」という科目分類の中に、各領域に関わる科目を設置している。「共通科目」には、「教職専門」に位置づけられる科目（連携教育方法）が、「健康科学専攻専門科目」には、「教科専門」「教科指導」に位置づけられる科目（体育・スポーツおよび保健体育科に関する科目）が設置されており、本コースの大学院生は系統的に履修することが可能である。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

3-1-②-1 2023 年度カリキュラム

③学校や社会のニーズ、政策課題（例えば、教員育成指標参照）に対応した教育内容の工夫がなされているか

〔現状〕

学校や社会のニーズへの対応という点で、「スポーツ教育学特論」において、部活動の地域移行や地域スポーツクラブとの連携の在り方の内容や、生涯学習社会における学校と地域の協働、教師の在り方について扱っている。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-③-1 2023 年度シラバス

④学生自身によるアクティブ・ラーニングを促す工夫に取り組んでいるか

〔現状〕

本大学院の各授業は、少人数で大学院生の報告や討論が中心であること、また専門性の高い内容を取り扱うことから、大学院生は常に主体的な学びを行う状況にある。より積極的な学びを促す工夫については、大学院委員会や教職支援センター運営委員会での FD・SD を実施している。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-1-④-1 大学院 FD・SD のポスター

⑤学生間の協働による課題発見力・課題解決力、価値協働を育成する場を設定しているか

〔現状〕

複数の学生が受講する科目の一部（スポーツ教育学特論など）においては、健康科学や教育に関する課題を思考し、解決に向けた方策を提案するといった内容を取り入れている。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

3-1-⑤-1 2023 年度 シラバス

3-1-⑤-2 大学院 FD・SD のポスター

⑥コアカリキュラムに対応した教職課程のカリキュラムを提供しているか

〔現状〕

本大学院の専修免許状の教職課程科目は、教育職員免許法施行規則にある「大学が独自に設定する科目」のみで開講しているため、平成 30 年度申請の教職課程再課程認定において、教職課程のコアカリキュラムを適用していない。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

3-1-⑥-1 2023 年度カリキュラム

⑦「教職実践演習」の運用上の適切性、「履修カルテ」の活用場の工夫を図っているか

〔現状〕

専修免許状の教職課程においては教職実践演習を開講していない。また大学院では履修カルテとして教職ポートフォリオを運用している。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

3-1-⑦-1 履修カルテ

3-1-⑦-2 教職ポートフォリオ

⑧本来の対面授業のほかに、遠隔操作による授業（オンライン、オンデマンドなど）の工夫も取り入れているか

〔現状〕

本大学院では、仮想空間と現実空間を高度に融合したハイブリッド教育による教育効果を最大化することを目指し、「空間の枠を超えた学習環境」を整備している。本コースでは、全ての特論科目をオンライン形式（同時双方向型・オンデマンド）で実施しており、就労している社会人院生にとっても学びの機会や効果を最大限に拡大している。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

3－1－⑧－1 新潟医療福祉大学大学院ウェブサイト「夜間開講とメディア授業」
<https://www.nuhw.ac.jp/grad/support/decourse.html>

〔改善の方向性・課題〕

①と②について、分野専門科目には「スポーツ教育学特論」、「保健体育科教育学特論」、「スポーツ教育学演習」などの科目があり充実している。メディア化が進んでいることから、大学院生の指導力の修得と向上に関して、研究科としてどのように取り組むかは重要課題である。また、メディア授業の効果検証を行い、改善策を検討していきたい。③について、「スポーツ教育学特論」において、学校や社会のニーズに関する教育を実施しており、特に課題はない。④について、今後はより一層、深い学びを意識したアクティブ・ラーニングの機会を企画していきたい。⑤について、学生間の協働による価値協働を育成する場は設定しておらず、検討・企画していきたい。⑥について、本大学院の専修免許状の教職課程科目は、平成 30 年度申請の教職課程再課程認定において、教職課程のコアカリキュラムを適用していない。今後は適用させる方向で内容を修正していきたい。⑦について、大学院生は履修カルテによって適切かつ体系的に教職課程の学びを深めており、特に課題はない。⑧について、前述したように、本学大学院ではメディア授業（オンライン、オンデマンド授業）を積極的に取り入れている。今後もその効果について検証し、工夫していきたい。

基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域との連携

①教育の実際場面に学生が触れるフィールドを提供しているか

〔現状〕

学校現場での教職ボランティアを希望する学生に対し、情報の提供及び周知を積極的に行っている。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3－2－①－1 『教職支援センターニューズレター第8号』

https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/pdf/newsletter_no8.pdf

②取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する場を設定しているか

〔現状〕

今のところ特に設定していない。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3－2－②－1 2023 年度カリキュラム

③様々な体験活動（ボランティア、インターンシップ、介護等体験等）とその省察による往還の機会を提供しているか

〔現状〕

「ボランティア体験を語る会」を年に2回開催しており、省察や教員からの助言を受ける機会として活用している。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-③-1 『教職支援センターニューズレター第8号』

https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/pdf/newsletter_no8.pdf

④様々な子どもの発達段階に関する教育実践的な情報を提供しているか

〔現状〕

スポーツ教育学特論、保健体育科教育学特論の授業内の一部で提供している。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-④-1 2023年度シラバス

⑤教育委員会との組織的な連携協力体制を構築しているか

〔現状〕

新潟県教育委員会・新潟県内私立大学教員養成連絡協議会や、新潟市教育委員会・新潟県内私立大学教員養成連絡協議会を、本学を会場に隔年で開催し、教育委員会と教員の養成、採用、研修の在り方について情報交換や連携を進めている。

〔優れた取組〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

3-2-⑤-1 「新潟市教育委員会・新潟県内私立大学 教員養成連絡協議会
開催報告」 教職支援センター年報第6号. p.60-61.

⑥教育実習の指定校（協力校）との連携を図っているか

〔現状〕

今のところ連携していない。

〔優れた取組〕

特になし

⑦教育実習に臨む上での必要な履修要件を設定しているか

〔現状〕

本大学院の専修免許取得コースにおいては、教育実習を開設していない。

〔優れた取組〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

3－2－⑦－1 2023 年度カリキュラム

〔改善の方向性・課題〕

①～③に関して、学校現場での教職ボランティアへの参加は必須とはしておらず、実践的指導力を育成する場についても、現在のところ特に設定はしていない。今後大学院での専修免許状取得における実践的指導力の育成という面で、現状よりも学生が学校現場に関わる仕組みを整えていきたい。④～⑦については、現状のカリキュラムにおいては特に課題は無いと考えている。今後、教育実習等を設ける場合には適切に対応していきたい。

Ⅲ．総合評価（全体を通じた自己評価）

令和5年度の教職課程自己点検・評価活動により、新潟医療福祉大学大学院修士課程健康科学専攻健康スポーツ学分野 中・高保健体育専修免許状取得コース（以下、専修免取得コース）の教職課程に大きな問題がないことが確認された。

「より優れた QOL サポーターとしての教師」の育成を掲げている専修免取得コースは、教職課程で学ぶ大学院生が、高度な教育研究能力と多様な人々の連携を促進できる能力を身に付けることを目的としている。この目的を達成すべく、少人数の大学院生に対して手厚い指導を実施している点が特色である。

基準項目 1－1 に示したように、専修免取得コースでは、修士論文報告会や大学院の授業振り返り（授業アンケート）の結果などを参考に、「より優れた QOL サポーターとしての教師」に関して自己点検・評価を行い、関係者間の共通理解に努めている。また、学位論文ループリックを用い、本学位プログラムの DP を踏まえた学習到達度も評価している。これらは、専修免許状取得コースにおいて教職課程としての学びの質を担保する優れた取り組みだと考えられる。

他方で、専修免許状取得に関連する FD や SD が行われていなかったり（基準項目 1－2－④）、教職課程科目に教職課程コアカリキュラムが適用されていなかったりする（基準項目 3－1－⑥）など、教職課程の内実を充実させるために改善に努めるべき点が複数認められる。また、教職ボランティアへの参加を必須としておらず、実践的指導力を育成する場も設定していない現状（基準項目 3－2－③）もある。この点については、専修免許状取得における実践的指導力の育成という観点から、大学院生が学校現場へ関わる仕組みを整えていく必要があるといえる。

IV. 現況基礎データ一覧

法人名 学校法人 新潟総合学園					
大学院・専攻科名 新潟医療福祉大学大学院 健康科学専攻健康スポーツ学分野					
専攻科・コース名（必要な場合） 専修免許取得コース（中・高保健体育）					
1 修了者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					令和6年5月1日現在
① 前年度修了者数	健康科学専攻健康スポーツ学分野 10名				
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	健康科学専攻健康スポーツ学分野 7名				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	健康科学専攻健康スポーツ学分野 5名				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	健康科学専攻健康スポーツ学分野 0名				
④のうち、正規採用者数	健康科学専攻健康スポーツ学分野 0名				
④のうち、臨時的任用者数	健康科学専攻健康スポーツ学分野 0名				
2 教員組織					令和5年5月1日現在
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	健康科学部 健康スポーツ学 分野 6名 計 6名	健康科学部 健康スポーツ学 分野 6名 計 3名	健康科学部 健康スポーツ学 分野 11名 計 11名	健康科学部 健康スポーツ学 分野 1名 計 1名	
相談員・支援員など専門職員数 0名					